

日本の放散虫文献データベース —2004 CD版—

桑原希世子*・八尾 昭*・水谷伸治郎**

Database of Japanese radiolarian literatures
— 2004 CD Version —

KUWAHARA Kiyoko*, YAO Akira* and MIZUTANI Shinjiro**

Abstract The construction of this database was started at 1982 on the basis of compilation of the Japanese radiolarian literatures by MIZUTANI Shinjiro. MIZUTANI was a project leader of the Co-operative Research 1982-1983, and designed the original style of this database. A total of 192 literatures were included in a LIST OF PAPERS on radiolarian fossils and radiolarian biostratigraphy by Japanese paleontologists and stratigraphers (Mizutani, 1984).

The database was maintained mainly by MIZUTANI from 1982 to 1990, and a total of 425 literatures were listed in the second publication (Mizutani, 1991), and 630 literatures were listed in the third publication (Mizutani and Yao, 1993). YAO Akira and KUWAHARA Kiyoko have continued to prepare the database since 1991. They added a new field "geologic age of radiolarian fossils" to the ordinary data. The list contained 669 literatures in 1994 (Yao et al., 1994) when the INTERRAD VII was held in Osaka. Yao et al. listed 692 literatures in Yao et al. (1995), 794 literatures in Yao et al. (1997), Kuwahara and Yao (1998) added 232 literatures, and Kuwahara et al. (2001) listed 1321 literatures. Recently Kuwahara (2004) added 295 literatures, and a total of 1616 literatures are listed in this database (2004 CD Version).

Literatures dealing with radiolarians and radiolarian fossils, which were reported from Japan and by Japanese researchers, are listed here according to the alphabetical order of the author(s). Each of them is systematically arranged as follows: author(s), year, title, name of publication, volume, number, pages, plates, figures, tables, language of text and abstract (C: Chinese, E: English, Es: Esperanto, F: French, G: German, J: Japanese, K: Korean, R: Russian, S: Spanish), geologic age of radiolarians (Cm/110: Cambrian, O/120: Ordovician, S/130: Silurian, D/140: Devonian, Cb/150: Carboniferous, Pm/160: Permian, Tr/210: Triassic, J/220: Jurassic, K/230: Cretaceous, Pg/310: Paleogene, N/320: Neogene, Q/330: Quaternary, R/340: Recent), and description of new species (NSP). The new names of authors who changed their family name are bracketed. The author name which has the same surname and the same given name as another author in Roman spelling, is marked with (A) or (B).

放散虫文献データベースの構築の経緯

日本における放散虫類の研究は、1907年に最初の論文が
出されて以来、約100年が経過した。この間、放散虫類の
研究がコンスタントに進んだわけではなく、1970年代後半

まで放散虫類が特に注目されることはなかった。ところが、
1970年代末以降、「放散虫革命」と称されるほど放散
虫類の研究が日本列島の地質形成史の解明などに重要な役
割を果たすようになった。この経緯については、放散虫文
献データベースの解析に基づいて八尾ほか(2001)がレ
ビューしている。

* 大阪市立大学大学院理学研究科地球学教室 Department of Geo-
sciences, Graduate School of Science, Osaka City University, Osaka
558-8585, JAPAN.

E-mail: yao@sci.osaka-cu.ac.jp and kuwahara@sci.osaka-cu.ac.jp

** 名古屋市名東区代万町 2-21 / Daiman-cho 2-21, Meito-ku,
Nagoya 465-0086, Japan.

水谷伸治郎は1982年より、文部省科学研究費総合研究
(A) (1982-83)の一環として、放散虫文献データベース
の構築を開始した。その発想の根底には、放散虫研究にお
いて文献の果たす役割は大きく、少なくとも日本という研
究主体および研究地域の文献だけでもデータベース化する
ことが重要であるという認識があった。その認識は、時が

経った現在においても基本的には変わらない。Mizutani (1984) は日本人による放散虫類研究の文献192件をリストし、それを初めて出版した。その際のデータ項目は「著者名」、「題目」、「出典名」などの10項目（後述）であり、全てのデータがローマ字・英語化された。その様式がその後の放散虫文献データベース（英語版）の雛形となった。その後、Mizutani (1991) は総計425文献を、さらに Mizutani and Yao (1993) では総計630文献を収録し、出版した。

1991年からは、八尾 昭・桑原希世子が放散虫文献データベースの構築を引き継いだ。その際、データ項目として文献で扱われた放散虫類の「地質年代」を追加し、日本語版文献データベースの編纂も開始した。さらに英語版では英文要旨をデータ項目として取り込んだ。ただし、本文献データベースの出版に際しては、著作権の問題等により英文要旨項目を省いた。

Yao et al. (1994) は大阪で第7回国際放散虫研究者集会 (INTERRAD VII, OSAKA, 1994) が開催された折りに総計669文献をリストして出版した。その後、大阪徹化石研究会会誌特別号 (NOM, Spec. Vol.) の中で、Yao et al. (1995) は総計692文献を、Yao et al. (1997) は総計794文献をリストし、出版した。さらに、Kuwahara and Yao (1998) は新たに232文献を追加し、Kuwahara et al. (2001) は総計1321文献をリストし、出版した。

2000年からは、米澤 剛・吉田大介（大阪市立大学大学院理学研究科地球学教室地球情報研究室）やV. Raghavan（大阪市立大学学術情報総合センター）の協力を得て放散虫文献データベースのWeb公開の準備を進め（Raghavanほか、2000）、2002年1月にWeb公開を実施した。また、日本学術会議古生物学研究連絡委員会（第17期）による「日本産古生物タイプ標本データベース」の作成の一環として放散虫タイプ標本データベース（Yao and Kuwahara, 2001）の構築も開始し、2003年4月から文献データベース（JRAD）とタイプ標本データベース（Radtype）の両者をWeb上でリンクさせた（八尾ほか、2003）。このリンクのために文献データベースのデータ項目として「新種記載の有無」を設けた。

Kuwahara (2004) は、文献データベースにおいて、新たに295文献を追加し、リストを出版した（本号）。文献データベース全体としての文献数は1616文献に達しており、このリストは2004 CD版（Kuwahara et al., 2004）として出版された（本号）。

放散虫文献データベースについて

1. 文献の範囲：

放散虫文献データベース（英語版、日本語版）は、「日本列島とその周辺域から」ないし「日本人による」を基本とし、放散虫類を扱った研究文献を網羅している。研究分野は、化石放散虫類の古生物学的研究、現世放散虫類の生物学的研究、放散虫生層序学的研究、上記以外の放散虫類を扱った研究である。文献データベースに登録する基準は、学術雑誌、報告書、書籍などに印刷された論説・総説・短報・ノートなどにあたる出版物であり、次の(1)～(3)のいずれかの条件を備えているものである。

- (1) 出版物の本文・図・表のいずれかに放散虫類の学名が記されている。
 - (2) 出版物中の図版・図に放散虫類が含まれている。
 - (3) 出版物中で放散虫類が関連深く扱われている（処理法、文献データベースなど）。
- なお、講演要旨・新聞記事などは登録していない。

2. データ項目：

文献のデータ項目は、①著者名、②発行年、③題目、④出典名、⑤巻・号、⑥ページ、⑦図版、⑧図、⑨表、⑩本文言語・要旨言語、⑪地質年代、⑫新種記載の有無の12項目である。

3. データの表示：

本文献データベース（英語版）では、全てのデータ項目が英語化・ローマ字化されている。文献データベース（日本語版）では、出版物の本文が日本語で記されたものは、データをそのまま日本語でリストしている。出版物が英語のみで書かれているものは英語（著者名はローマ字）でリストしているが、日本語タイトル等がつけられているものは日本語でリストしている。このため出版物の言語については言語の略字（下記）を参照されたい。

また、著者名および出典名は、可能な限り省略せず表記している。

4. 文献の配列：

文献の配列は著者名をローマ字化した場合のABC順である。なお、著者名のローマ字化は、ヘボン式を採用している。同一著者の文献では出版年の古いものから新しいものへの順である。共著者のある場合は第2著者名のABCが第2基準となる。著者の苗字が改名された場合は、旧名の後ろにカッコを付け、カッコ内に新名を記している。ローマ字表記上、同姓同名となる著者の場合は、著者名の後ろに(A)、(B)を付けて区別している。

5. 言語の略字：

本文言語・要旨言語の略字は、中国語：C, 英語：E, エスペラント語：Es, フランス語：F, ドイツ語：G, 日本語：J, ロシア語：K, 朝鮮語：R, スペイン語：Sである。例えば、本文が日本語で、要旨が英語の場合はJEと記し、本文・要旨とも英語の場合はEEと記している。

6. 地質年代の略字／数字：

地質年代の略字／数字は、カンブリア紀：Cm/110, オルドビス紀：O/120, シルル紀：S/130, デボン紀：D/140, 石炭紀：Cb/150, ペルム紀：Pm/160, 三畳紀：Tr/210, ジュラ紀：J/220, 白亜紀：K/230, 古第三紀：Pg/310, 新第三紀：N/320, 第四紀：Q/330, 現世：R/340である。例えば、ペルム紀・三畳紀の放散虫化石を扱った文献では、Pm,160, Tr,210と記している。

7. 新種記載の有無：

新種記載の有無では、記載が有る場合はNSPという記号を記し、無い場合は空白である。なお、新種記載のある文献は、ホームページ (<http://gisws.media.osaka-cu.ac.jp/radio/jindex.php>) 上ではタイプ標本データベースとリンクしている。

2004 CD 版文献データベースについて

放散虫文献データベースのオリジナルなデータは、ソフトウエアとしてクラリス社「ファイルメーカーPro Ver. 4」を用いて入力し、管理している。データ入力において、英語版と日本語版の2本立てである。従来、本データベースの出版に際しては、英語版のハードコピーのみが用いられてきたが、本2004 CD 版では、英語版と日本語版の両者を収録した。データはPDF形式で収録している。

文 献

- Kuwahara, K. and Yao, A. (1998) LIST OF PAPERS (after Yao, Mizutani and Kuwahara, 1997) on radiolarian fossil and radiolarian biostratigraphy by Japanese paleontologists and stratigraphers. *News of Osaka Micropaleontologists, Special Volume*, no. 11, 303-323.
- Kuwahara, K., Yao, A. and Mizutani, S. (2001) LIST OF PAPERS on Japanese radiolarians and radiolarian biostratigraphy. *News of Osaka Micropaleontologists, Special Volume*, no. 12, 349-416.
- Kuwahara, K. (2004) LIST OF PAPERS (after Kuwahara, Yao and Mizutani, 2001) on Japanese radiolarians and radiolarian biostratigraphy, *News of Osaka Micropaleontologists, Special Volume*, no. 13, 229-232.
- Mizutani, S. (1984) LIST OF PAPERS on radiolarian fossil and radiolarian biostratigraphy by Japanese paleontologists and stratigraphers. *Report of Co-operative Research on Radiolarian Biostratigraphy of Mesozoic and Paleozoic Groups in Japan*, A1-A22 and B1-B22.
- Mizutani, S. (1991) LIST OF PAPERS on radiolarian fossil and radiolarian biostratigraphy by Japanese paleontologists and stratigraphers. *Report of Co-operative Research (A) Radiolarian Biostratigraphy and its International Correlation*, 517-603.
- Mizutani, S. and Yao A. (1993) LIST OF PAPERS on radiolarian fossil and radiolarian biostratigraphy by Japanese paleontologists and stratigraphers. *News of Osaka Micropaleontologists, Special Volume*, no. 9, 379-442.
- Raghavan, V., 柴山 守・米澤 剛・八尾 昭・水谷伸治郎・桑原希世子 (2000) 日本人による放散虫研究文献データベース—JRADSの開発。大阪市立大学学術情報総合センター紀要, vol. 1, 38-46.
- Yao, A. and Kuwahara, K. (2001) Radiolaria. In Ikeya, N., Hirano, H. and Ogasawara, K. (eds.) *The database of Japanese fossil type specimens described during the 20th Century, Paleontological Society of Japan, Special Papers*, no. 39, 17-90.
- Yao, A., Mizutani, S. and Kuwahara, K. (1994) LIST OF PAPERS on radiolarian fossil and radiolarian biostratigraphy by Japanese paleontologists and stratigraphers. Co-operative Research Group on radiolarians, 90 p.
- Yao, A., Mizutani, S. and Kuwahara, K. (1995) LIST OF PAPERS on radiolarian fossil and radiolarian biostratigraphy by Japanese paleontologists and stratigraphers. *Report of Co-operative Research (A) Research on geohistorical changes of Phanerozoic oceanic environments by means of radiolarians*, 645-704.
- Yao, A., Mizutani, S. and Kuwahara, K. (1997) LIST OF PAPERS on radiolarian fossil and radiolarian biostratigraphy by Japanese paleontologists and stratigraphers. *News of Osaka Micropaleontologists, Special Volume*, no. 10, 349-416.
- 八尾 昭・水谷伸治郎・桑原希世子 (2001) 日本の放散虫文献データベースからみた放散虫研究の動向。大阪微化石研究会誌, 特別号, no. 12, p. 375-382.
- 八尾 昭・吉田大介・桑原希世子・Raghavan V.・水谷伸治郎 (2003) 日本の放散虫文献・標本データベースのWeb公開。第8回放散虫研究集会(筑波大学), 講

演要旨, P-10.